

2026 4						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

2026 5						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

2026 6						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2026 7						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2026 8						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1 オープンキャンパス (病院地区)						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

2026 9						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

2026 10						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2026 11						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2026 12						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2027 1						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 31	25	26	27	28	29	30

2027 2						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

2027 3						
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			



発行日 2026年6月1日

企画編集：九州大学歯学部 広報委員会広報誌担当

築山 能大、井上 良介、西村 優輝

九州大学歯学部についてのさらに詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

URL: <https://www.dent.kyushu-u.ac.jp/>



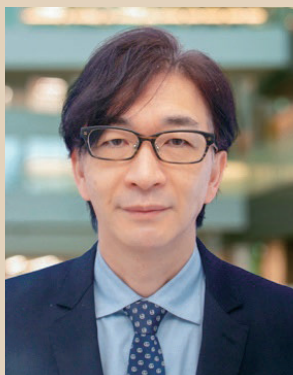
九州大学医学部等学務課歯学学生係

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1 TEL092-642-6261 FAX092-642-6263



夢を動かす歯科医師候補生へ

九州大学歯学部長 自見 英治郎（福岡県立小倉西高等学校卒）



歯科医師を目指す皆さんの心には、「人の役に立ちたい」「笑顔を守りたい」という思いがあるのではないのでしょうか。その思いこそが、学びの出発点であり、これから6年をかける意義につながります。歯科医学は、口の健康を通して全身の健康を支える学問であり、人々の生活の質を高める大切な使命を担っています。九州大学歯学部は、そうした志をもつ学生が自ら考え、行動し、成長できる場所です。

本学部は「口腔の健康から全身の健康へ(Overall Well-being through Oral Health)」を理念に掲げ、基礎医学から臨床診療、さらにはチーム医療を視野に入れた教育まで一貫して学べるカリキュラムを整えています。確かな知識と技術を身につける教育はもちろんのこと、臨床の現場で出会う患者さんの悩みに寄り添う力、研究によって新しい医療を切り拓く力を同時に養う場もあります。また、卒業生の寄付によって設立された基金により、海外の大学や研究機関で学ぶ留学支援制度が整っています。学生が世界の最新の歯科医療や生命科学研究に直接触れる機会を持つことで、視野が広がり、将来の選択肢も大きく広がります。また、本学部には海外の大学院生や臨床実習の見学者として来ている留学生もおり、キャンパス内では実習や研究の場で異文化に触れる機会が生まれます。

大学での6年間は、知識を積み重ねるだけの時間ではなく、人間として大きく成長する貴重な期間でもあります。歯学部には体育系・文化系のサークルが多数あり、勉強や実習の合間に仲間とともに挑戦する場が広がっています。また全国の歯科学生が集まる「全日本歯科学生体育大会(オールデンタル)」に参加することで、他大学の歯学部生たちと交流し、友情や競争心を育む機会も得られます。こうした活動を通じて、学問だけでは得られない人間性や協調性、柔軟な思考力が身につき、将来的な医療現場での協働力にもつながります。

歯科医師の道は決して平坦ではありませんが、努力を重ねるほどに手応えと達成感が得られる道でもあります。歯科医師国家試験に合格するための勉強は厳しい課題だと理解しておくことも大切ですが、その先には患者さんの安心と信頼、そして「働くこと」「学び続けること」のやりがいがあります。歯科医師になるという強い覚悟を持って、授業や実習に真剣に向き合ってください。同時に、大学では同期や先輩・後輩と仲良く過ごし、互いに支え合いながら成長していきましょう。同じ目標をもつ仲間との出会いこそが、将来の医療現場でも頼りになる存在になります。

皆さんの探究心と優しさが、未来の歯科医療を支える力になることでしょう。九州大学歯学部は、志ある皆さんが夢を形にできるように、教育面、研究面、そして学生生活の面でも全力で支えます。新しい学びの世界で、ぜひ自分の可能性を試してください。皆さんとこの学び舎でお会いできる日を、心より楽しみにしています。

I N D E X

目次

歯学部長挨拶	1
入学するまで	3
キャンパスライフ:伊都キャンパス時代	5
キャンパスライフ:病院キャンパス時代	7
キャンパスライフ:卒業生・在校生からのメッセージ	9
卒業後のキャリアパス	11
研究室紹介	13
OBT研究センター紹介	17
DDR研究センター紹介	19
社会貢献・社会連携	21
国際交流	22
歯学部サークル紹介	27
同窓会	28





九州大学歯学部に入学するまで

九大歯学部にはどんな学生が求められているのでしょうか。

九州大学歯学部は高度職能人としての歯科医師を養成することはもちろんですが、歯科医療や歯科医学の教育・研究におけるリーダーとして国内外で活躍できる優れた人材を育成することを教育理念に掲げています。

歯学部では学力に優れている事はもちろんのこと、九州大学教育憲章に基づく秀でた人間性、社会性、国際性を有し、また医療福祉の面から奉仕精神や倫理観に富む人材を求めています。当学部を希望する受験生の皆さんには以上のような歯学部の基本理念に沿った明確な目的意

識を持っていただくよう希望します。

そのために入学試験では多様な価値観をもった幅広い人材が選抜できるよう、学力を主たる判断基準とした前期日程個別学力検査に加え、優れた学力と共に歯科医療に対する使命感、探究心、創造性、論理的思考力、生命体への関心と深い愛情などの資質をも選抜評価基準に採用した総合型選抜と学校推薦型選抜による入試を実施しています。また、令和7年度入試からすべての入学者選抜で面接を取り入れています。

各選抜方法による募集人員

総合型選抜 : 8名
学校推薦型選抜 : 8名
一般選抜(前期日程) : 37名

●入試倍率(令和8年度)

総合型選抜 2.9倍
学校推薦型選抜 3.7倍
前期日程 2.1倍



●歯学部入試科目(令和9年度入試)(予定)

学 力 検 査 等 の 区 分 ・ 日 程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個 別 学 力 検 査 等		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等										英 語 の リ ス ニ ン グ の 利 用
	教科	科 目 名 等	教科等	科 目 名 等	試験の区分	国 語	地 歴 及 び 公 民	数 学	理 科	外 国 語	情 報	小 論 文	面 接	配点 合計	
前期日程	国 地 歴 公 民	国 「地総、地探」、 「歴総、日探」 「公、倫」、 「公、政・経」	から1 面接	数 理 外 数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、 数Cから1 英、独、仏、 中、韓から1 情報Ⅰ (6教科8科目)	数Ⅰ、数Ⅱ、 数Ⅲ、数A、 数B、数C 物理・物、 化基・化、 生基・生から2 英(英Ⅰ、 英ⅡⅠ、 英ⅡⅢ、 論・表Ⅰ 論・表Ⅱ、 論・表Ⅲ)	大学入学共通テスト 個別学力検査等 計	100 — 100	50 — 50	100 250 350	100 250 350	100 200 300	25 — 25	— ※ —	475 700 1,175	利用する
総合型選抜	数 理 外 情報	数Ⅰ・数A 数Ⅱ・数B、 数Cから1 物、化、生 から2 英、独、仏、 中、韓から1 情報Ⅰ (6教科8科目)	その他	総合型選抜 第1次選抜 講義に対するレポート、 集団面接、提出された書類による選考 第2次選抜 大学入学共通テストの成績 学校推薦型選抜 第1次選抜 提出された書類による選考 第2次選抜 面接、大学入学共通テストの成績	大学入学共通テスト 個別学力検査等	入学者選抜概要や 九州大学HP(入試・入学)を参照									利用する

※点数化せず段階評価

総合型選抜・学校推薦型選抜合格者の声 2026年度歯学部1年生

総合型選抜合格者

- 講義レポートのために歯に関する本を読んだり、歯学分野の研究を調べたり、たくさんの知識を身につけました。総合型選抜の対策を通して、歯科医師になりたいとより強く思い、受験に向けてのモチベーションを上げることも繋がりました。
- 対策として面接練習等をする中で、自分が目指す歯科医師像がより明確になりました。講義中の専門的な言葉は先生が詳しく説明してくださるので、歯学の知識がないことに不安を覚える必要はありません。落ち着いて考え、自分の持つ力を十分に発揮することが大切だと感じています。
- 受験のチャンスも増えるし、総合型選抜の受験勉強をする時に歯学部の研究について調べるので歯学についても少し詳しくなれて一石二鳥です。
- 自分にはレポート作成やグループ面接など無理だと思って諦めかけている人でもぜひ挑戦してほしいと思っています。私自身、レポートの対策を始めた時は何から書き出していくのかかわからない状態でしたが練習を重ねていくうちに少しずつ形になっていきました。受験のチャンスを増やすという面でも一度、総合型や様々な受験方式を確認してみてください。
- 受験の機会が増えるとともに、実際に講義を受けることができるので自分の将来像やどの分野を専攻したいのか改めて考えることができます。私は対策として、歯学に関するYouTubeの動画を見て概要をまとめるという作業を何回か行い、友人とレポートのまとめ方やメモの取り方を共有して互いに高め合いました。集団面接では自分の意見だけではなく相手の意見を吸収することも大切だと思うので、視野を広く持つことが大切だと思います。
- 総合型選抜の対策では、九州大学だけでなく、ほかの大学の歯学部の講義をいくつかYouTubeで視聴し、本番と同様に一回で聞き取って要約、感想を書く練習をしました。その過程で歯学の様々な研究を目にし、自分が歯学部に入ったらやりたいことが徐々に見えてくるようになりました。また、グループ面接の対策では、ほかの意見に耳を傾け、触れられていないことにも目を向ける力が以前よりもつきました。総合型選抜は合否の前の対策の段階で視野を広げることができ、自身の将来像をよりはっきりとしたものにしてくれます。

学校推薦型選抜合格者

- 学校型推薦は30分の面接があり、そこで歯学系の質問や医療系の質問を多くされるので、練習する中で自分の歯科医療への考えを深めることができました。
- 学校推薦型選抜は個人面接なので、自分の伝えたいことを十分に伝えることができます。志望理由や将来の目標などをいかに具体的に言えるかで決まると言っても過言では無いです。なぜ九大歯学部に入りたいのかしっかりと考えてから臨みましょう。
- 二次試験の対策と面接練習の両立ができるか不安で推薦を受けるかとも迷いましたが、自分の将来を人一倍考える時間を作ることができたので受けて良かったと思っています。面接対策をする際に、現代の医療について自分なりに考えてみたり、歯学の専門的なことについて少し調べてみたりすることでより自分の将来への自覚と責任を持つことができました。
- 二次試験の面接対策として、歯学関係の資料をたくさん読むことになるので、入学前から歯学に対する知識を深めることができました。志望理由書などを書き、自らの志望動機を言語化することでより九大歯学部並びに歯科医師を志す気持ちを強固にすることができました。自分が高校時代に行ったことを振り返ることで、自身の強み、弱さに気づくことができましたし、学年の若いうちから推薦を意識することで自らの素行を見直し、勉強にも力を入れることができました。共通テスト後は面接対策でかなり忙しくなり、一般の二次試験と並行して対策を行わなければいけず大変ですが、かならず自身にとって良い経験となると思いますので、推薦も視野に入れて考えてみてください。
- 九州大学の歯学部は一般入試でも面接があり、学校推薦への対策が一般試験の対策につながるためとてもお勧めです。また面接対策を通じ、九州大学について調べることで大学への思いが強くなり受験により熱が入り、自分はどういう歯科医師になりたいのか、そうなるためにどうすればよいのかということを考える良い機会となります。特に、自分の考えを言語化するという過程を経ることでその力は入試だけでなく、ディスカッションやプレゼンテーションなどの際に役立ち、社会に出て必要な力を養うことにも直結します。
- 学校型推薦は長い面接と共通テストでほぼ決まります。そのため学校生活を頑張ってきた人、また歯学への情熱がある人にとっては合格のための絶好のチャンスです。面接はどの歯学部でも行われるのだから、ここで1回チャンスを増やしておくに越したことはないでしょう。ぜひ自分が後悔しない選択をしてください。

九州大学歯学部 オープンキャンパスと サマースクール

九州大学歯学部が受験生に贈る最高のイベント オープンキャンパスとサマースクール

サマースクールは歯学部を目指している高校生や受験生に「歯学の広がり」を知ってもらうための企画です。受験勉強の合間に「九州大学歯学部」を体験してみませんか？ 令和7年は8月2日(土)にサマースクールを開催し、実習体験や病院見学を行いました。今年は**8月2日(日)**に開催する予定です。



詳細は**歯学部ホームページ** URL: <https://www.dent.kyushu-u.ac.jp/> をご覧ください。



キャンパスライフ：伊都キャンパス 時代

『口腔の健康から全身の健康に貢献する』 歯科医学の教育・研究および歯科医療を牽引するトップリーダーを育成します！

歯学部学務委員長 兼松 隆

(歯学研究院口腔機能分子科学分野教授 久留米大学附設高等学校卒)

九州大学歯学部は、歯科医学の教育・研究および歯科医療において、総合知で歯科医学・医療を牽引し『口腔の健康から全身の健康に貢献する』グローバル・リーダーの育成を目指しています。

歯学部のカリキュラムポリシーに基づき、自然科学、人文科学、基礎医学、歯科基礎医学、臨床歯学に加え、医療系統合教育や一般医学教育を実践して、次世代の歯科医師・歯科医学研究者に求められる「口腔から全身の健康に貢献する能力」を醸成するための多彩なカリキュラムを提供しています。さらに、総合科目を通して、生涯にわたり学び続ける自己研修能力を育むために、能動学修者(アクティブラーナー)として高度な専門知識と臨床技能を恒久的に維持・発展させることができる歯科医療人の育成教育を実践しています。

6年間の学部教育は、教員や同窓の歯科医師と共に研修する1年次歯学オリエンテーション(九重研修)に始まり、歯学概論およびアーリーエクスポージャーでは、ワークショップ・グループ学修、大学病院の見学、研究室での研究入門等を通して、歯科医療、歯科医学研究・生命科学研究をいち早く学修し、仲間とのディスカッションを行って医療人・研究者に求められるコミュニケーション力を養います。このように、早期に先端の歯科医療や生命科学研究を体験して、目指すべき皆さんの将来像の形成を促します。歯学専門教育においては、先端歯科医学を深く掘り下げながら学修する講義と実習を通して、歯科医師に必要な知識・技能・態度を磨きます。また、基幹教育で培った能動学修の素養をさらに伸ばし、知識を統合して課題解決を図る能力を習熟させるために、問題解決型学修(Problem-Based Learning)やチーム基盤型学修(Team-Based Learning)などの課題解決型授業を展開しています。さらに、歯学部同窓会の学生会員として、同窓会と協働した生涯研修プログラムに学生時代から参加できます。このように、九州大学歯学部では多彩な教育手法を駆使して、社会の多様なニーズに対応できる歯科医師や歯科医学・生命科学研究者の育成教育を実践することで、歯科医学の教育・研究および歯科医療分野で活躍するグローバル・リーダーの育成を目指します。皆さんも、歯科医学界を牽引するトップリーダーとなるべく、九州大学歯学部で学んでみませんか。



令和8年度 歯学部入学者出身高校

高校名	人数	高校所在地 (都道府県)	高校名	人数	高校所在地 (都道府県)
一関第一	1	岩手	明善	2	福岡
聖ウルスラ学院英智	1	宮城	東筑紫学園	1	福岡
江戸川学園取手	1	茨城	九州国際大学付属	1	福岡
国立	1	東京	福岡大学附属大濠	1	福岡
武蔵野北	1	東京	筑陽学園	1	福岡
東洋	1	東京	九州産業大学付属九州	2	福岡
城北(私立)	1	東京	鳥栖	1	佐賀
京都共栄学園	1	京都	弘学館	1	佐賀
清風南海	1	大阪	佐世保北	1	長崎
小林聖心女子学院	1	兵庫	青雲	2	長崎
津山	1	岡山	熊本	1	熊本
岡山大安寺	1	岡山	大分舞鶴	1	大分
岡山白陵	1	岡山	宮崎西	1	宮崎
広島大学附属福山	2	広島	宮崎学園	1	宮崎
高松	1	香川	鶴丸	2	鹿児島
愛光	1	愛媛	鹿児島実業	1	鹿児島
高知追手前	1	高知	樟南	2	鹿児島
東筑	2	福岡	ラ・サール	1	鹿児島
福岡	3	福岡	昭和薬科大学附属	1	沖縄
筑紫丘	1	福岡			
修猷館	6	福岡	合計	54	

基幹教育科目

【基幹教育科目】

1. 基幹教育セミナー
基幹教育セミナー

2. 課題発見科目
課題発見科目

3. 学術アプローチ科目
学術アプローチ科目

4. 言語文化科目
第1外国語(英語)、第2外国語

5. 文系ディシプリン科目

●必修科目

心理学入門

●選択必修科目

人間・社会・文化A・B、哲学・思想入門、
芸術学入門、先史学入門、歴史学入門、
文学・言語学入門、文化人類学入門、
地理学入門、社会学入門、現代教育学
入門、教育基礎学入門、法学入門、政治
学入門、経済学入門、経済史入門、The
Law and politics of International
Society

6. 理系ディシプリン科目

●必修科目

入門微分積分Ⅰ・Ⅱ、入門線形代数Ⅰ・
Ⅱ、数理統計学、無機物質化学Ⅰ・Ⅱ、
有機物質化学Ⅰ・Ⅱ、情報科学Ⅰ・Ⅱ、
自然科学総合実験

●選択必修科目

力学基礎、力学概論、電磁気学基礎、
電磁気学概論、熱力学基礎、熱力学概
論、細胞生物学、生物学概論

7. サイバーセキュリティ科目
サイバーセキュリティ基礎論

8. 健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科学演習

9. 総合科目

【2年次以降の基幹教育科目】

高年次基幹教育科目

漢方医薬学、インフォームド・コンセ
ント、薬害、臨床倫理

【1年次専攻教育科目】

歯学オリエンテーション、歯学概論Ⅰ
～4、解剖学Ⅰ、口腔組織学Ⅰ、口腔解
剖学Ⅰ・3・4、口腔生理学Ⅰ

歯学オリエンテーション

1年生は入学後、九重共同研修所にて研修を
行います。令和8年は5月9日(土)・10日(日)
に実施しました。



伊都キャンパスってどんなところ？

平成21年4月に旧六本松キャンパスは伊都キャンパス(通称 伊都キャン)として
福岡市の西部元岡へと完全移転しました。伊都キャンパスは福岡市の中心部天神
からバスで約55分のところにあり、敷地面積約245haの広大なキャンパスです。
歯学部の1年生は1年間ここで過ごすことになります。



カフェテリア『Qasis』



広々とした構内



九州大学中央図書館



椎木講堂



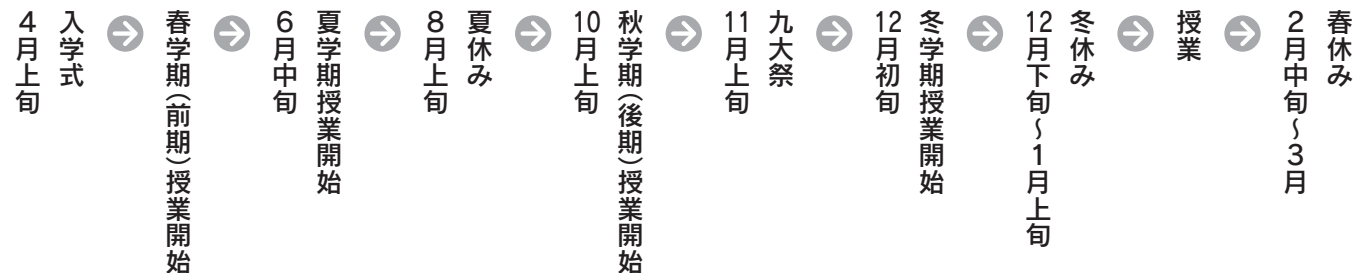
センター1号館(センターゾーン)



くつろぎのひととき

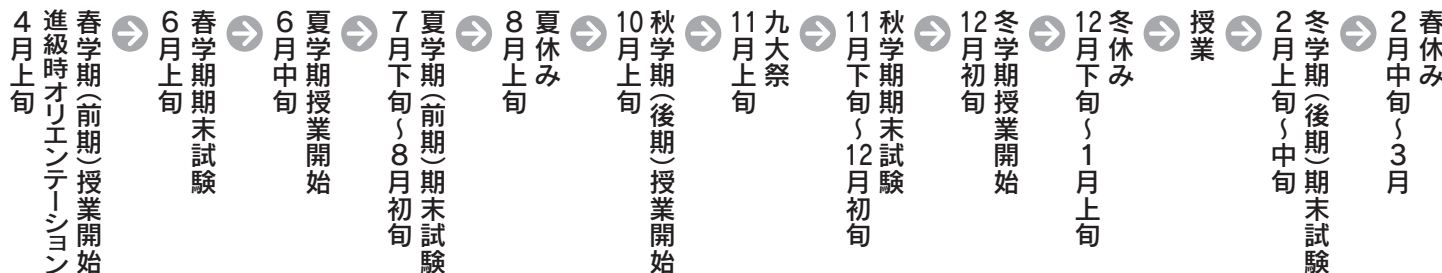
Schedule 〔第1学年〕 伊都キャンパス

※各学期末に科目によって期末試験が実施されます。



Schedule 〔第2～4学年〕 病院キャンパス

※第5～6学年のスケジュールは臨床実習等により大幅に異なります。



キャンパスライフ：病院キャンパス 時代



九州大学歯学部が目指す教育

- (1) 歯学部教育の基本である優れた歯科医師の養成
- (2) 国内外において活躍する歯科医療・歯科医学における教育・研究リーダーの育成



病院キャンパスのシンボル
「神の手」



病院外観



開放感ある通路



活気のある診療室

歯学部では、どんなことを学ぶのだろう？

九州大学歯学部の学科課程表（令和8年度入学者）

学科目	授業科目
1年次： 歯科医学総論 口腔基礎常態学	歯学オリエンテーション、歯学概論1・2・3・4 解剖学1、口腔解剖学1・3・4、口腔組織学1、口腔生理学1
2年次： 歯科医学総論 口腔基礎常態学 口腔基礎病態学	歯学総論1、歯学総論2 解剖学2、解剖学実習1・2、口腔解剖学2、口腔組織学2・3、 発生学、口腔生理学2・3・4、口腔生化学1・2・3・4 口腔微生物学、病理学1・2・3、口腔病理学1、 薬理学1・2・3、臨床歯科薬理学
3年次： 歯科医学総論 口腔基礎病態学 口腔保健学 臨床歯学	歯学総論3、アーリーエクスポージャー、リサーチエクスポージャー1・2・3 口腔病理学2、歯科理工学 口腔保健学、環境衛生学、小児歯科学1・2・3・4、 歯科矯正診断学、歯科矯正診断学実習 歯冠補綴架工義歯学、口腔画像診断学1・2、医療行動科学1
4年次： 歯科医学総論 口腔保健学 臨床歯学	歯学総論4、リサーチエクスポージャー4 歯科矯正治療学、歯科矯正治療学実習 医療行動科学2・3、障害者歯科学1・2、 歯科保存学1・2・3、歯周病学1・2・3、 全部床義歯補綴学1、全部床義歯補綴学2、部分床義歯補綴学、 口腔インプラント学、顎口腔外科学、顎顔面形成外科学、 口腔感染・炎症治療学、口腔腫瘍外科学、 歯科麻酔学1・2、歯科全身管理学1・2、高齢者歯科学 漢方医薬学、インフォームド・コンセント、薬害、臨床倫理、 地域包括ケアシステム 歯科法医学、人類遺伝学
5年次： 歯科医学総論 臨床歯学	歯学総論5 歯科臨床予備実習、歯科臨床実習
6年次： 歯科医学総論 臨床歯学 関連科目	歯学総論6、歯学総論7、統合歯学、プレリサーチ 歯科臨床実習 病態制御学

体の構造・
機能、病気の
原因について
学んだよ。

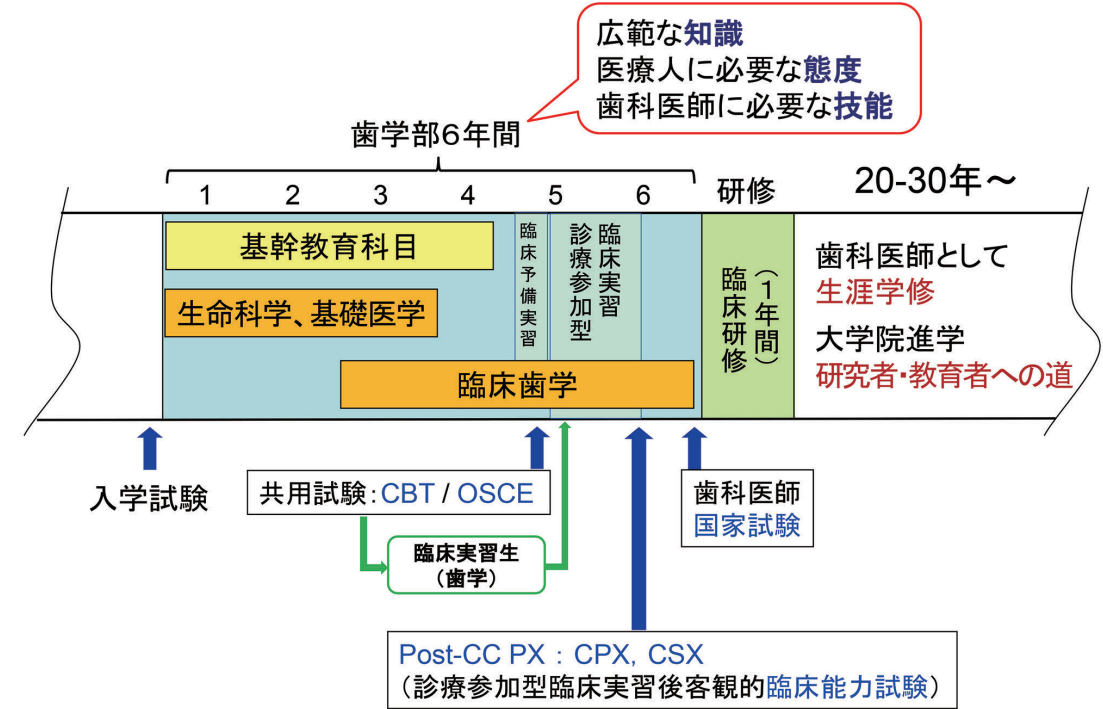
虫歯や歯周病、
口や顎の
病気のしくみと
治療法について
学んだよ。

医療面接シミュ
レーションや
グループ学修
などを通して
医療人としての
態度を学ぶよ。

九大病院で、
患者さんの
治療実習を
するよ。

※令和3年度からクォーター（4学期制）科目に改編しました。また、令和7年度入学生から、1年次から専攻教育科目を始めるように改編しました。実施時期や学修目標については、歯学部ホームページに掲載のカリキュラムマップおよび当該年度の授業時間割をご覧ください。

九州大学歯学部の学修マップ〔概要（令和7年4月～）〕



学修マップ(上図)の解説

1年次は、伊都キャンパスで基礎教育科目を履修します。基礎教育では、人文系、理数系、言語文化系科目などで高い教養を身につけるとともに、基礎教育セミナーや課題発見科目等を通じて能動的学修を行います。令和7年度からは、木曜日は終日病院キャンパスで歯学部専攻教育科目の授業があり、「歯学概論」では、歯学部教員が週替わりで各分野の研究、教育、臨床のトピックを紹介し、春・夏学期には病院見学実習があります。また、口腔基礎常態学の科目として、「解剖学1」、「口腔解剖学1・3・4」、「口腔組織学1」、「口腔生理学1」を履修します。

2年次からは、病院キャンパスで学びます。2年次の前半は、解剖学、生理学、生化学などの口腔基礎常態学の科目を、後半は病理学、薬理学などの口腔基礎病態学の科目を修学します。3年次からは、臨床歯学の科目が実施され、4年次までに歯学の基礎知識を学修します。授業は講義だけでなく実習も多く、歯科医師に必要な基本的な知識・技能・態度を学修します。

基礎教育は高年次基礎教育科目として2～4年次にも実施されます。特に4年次には、医療系統合教育科目として医学部、薬学部、保健学科との合同授業が複数あり、例えば「インフォームド・コンセント」授業では、模擬患者さんにご協力いただき、多職種連携で説明と同意取得を行う実践的な実習も組まれています。

3・4年次には、リサーチエクスポージャーで各研究分野に配属され、教員とともに最先端の研究を行い、意欲ある学生はこの時点から本格的に生命科学研究をスタートさせることができます。

5年次には、臨床実習に進む前の全国共通の試験である共用試験CBT・OSCEが実施されます。CBT(Computer Based Testing)は、コンピュータを用いた「知識」に関する客観試験で、OSCE(Objective Structured Clinical Examination)は基本的臨床「技能」と「態度」を評価する試験です。共用試験に合格すると「臨床実習生（歯学）」として認定され、いよいよ診療参加型臨床実習に進みます。診療参加型臨床実習では、実際に患者さんの治療実習も行います（写真参照）。実習の最後には「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-Clinical Clerkship Performance Examination: Post-CC PX）」と呼ばれる実技試験を行い、それまでに身につけた基本的臨床能力を評価します。そして最後に、歯科医師国家試験を受験します。このように、歯学部では、広範な知識に加えて、医療人に必要な態度、歯科医師に必要な基本的臨床能力を身につけた上で卒業できるプログラムを実践しています。

歯学部卒業後は、1年間の歯科医師臨床研修、そしてその後は、研究、臨床、教育、行政などの様々な方面に進みますが、いずれの場合でも歯科医師として生涯学修が求められます。



歯学部ならではの実践的実習
「歯科臨床実習」:

臨床実習生（歯学）として、実際の患者さんを対象に治療実習を行います。

※患者さんのプライバシー保護のため、スタッフが患者役をしています。



キャンパスライフ：卒業生・在校生 からのメッセージ

学生からのメッセージ

6年間を振り返って

2025年度 歯学部卒業生 石田裕理江（福岡県立修猷館高等学校卒）

こんにちは。九州大学歯学部54期の石田裕理江です。歯学部での6年間は、勉強だけではなく、多くの出会いや挑戦を通して自分自身が大きく成長できる時間でした。振り返ると、本当にあっという間だったと感じます。入学したばかりの頃は、これから始まる大学生活に期待と少しの不安がありましたが、多くの経験や出会いに恵まれ、とても充実した時間を過ごすことができました。勉強や実習だけでなく、留学や部活動などさまざまな経験を通して、自分の視野や価値観も大きく広がった6年間だったと感じています。

九州大学歯学部では、1年次は伊都キャンパスで教養科目を学び、2年次からは病院キャンパスで歯科の専門科目が始まります。基礎から臨床へと段階的に学びが深まっていく中で、歯科医学の奥深さや面白さを実感する機会が増えていきました。実習では、これまで教科書で学んできた知識が実際の診療と結びついていくことを実感し、「歯科医師になる」という目標をより強く意識するようになりました。難しい内容に向き合うことも多いですが、同じ目標を持つ仲間と支え合いながら学ぶ時間は、とても充実しています。



臨床実習を行った九大病院を背景に

4年次にはニュージーランドへ留学する機会をいただき、ホームステイをしながら現地の大学の講義に参加しました。ホストファミリーとの生活や海外の学生との交流を通して、日本とは異なる文化や環境に触れることができ、自分の視野が大きく広がりました。九州大学では海外大学との交流も盛んで、海外の学生と関わる機会があることも大きな魅力の一つだと感じています。異なる価値観に出会う経験は、歯科医療のあり方や将来について考える大きなきっかけとなりました。

また、私はテニス部に所属しており、部活動も学生生活の大きな魅力の一つでした。練習や大会を通して多くの仲間と出会い、学年を越えた交流も広がりました。歯学部には「オールデンタル」と呼ばれる歯学部生だけの大会があり、全国の歯学部の学生が集まって競い合います。仲間と一緒に練習した時間や先輩方との交流は、大学生活をより豊かにしてくれる大切な思い出になっています。



ニュージーランド留学(4年次)

歯学部の勉強は決して簡単ではありませんが、同じ目標を持つ仲間とともに過ごす6年間はとても濃く、かけがえのない時間になります。受験勉強は大変な時期だと思いますが、その先にはきっと充実した学生生活が待っています。九州大学歯学部で多くの仲間と出会い、歯科医学を学びながら自分の可能性を広げていってほしいと思います。皆さんと同じキャンパスで学べる日を楽しみにしています。



学位授与式
(2026年3月25日)

あるので先輩、同期、後輩と仲良くなることができ、部活だけでなくプライベートでも充実した生活を送ることができます。歯学部の部活には、1年に一度全国の歯学部生が集まって大学別で競いあうオールデンタルが開催されます。私が経験した歯学部サッカー部のオールデンタルは年ごとに九州大学、徳島大学、鹿児島大学が主管で開催されていました。主管の大学のある地域に行って試合が行われるので、様々な地域に行くことができます。また、部活動では、OB、OGの先生方とOB戦や飲み会があるので現役メンバーだけでなく、先生方とも交流でき、様々なお話を伺うことができます。

九大歯学部では、歯科医師になるために勉強をする必要がありますが、勉強だけでなく部活、バイト、遊びも楽しむことができる環境が整っています。6年間の大学生活があるので、同期とはもちろん学年を超えて交流もできるので楽しい大学生活を送ることができると思います。今皆さんは大学受験で大変だと思いますが、九州大学歯学部で共に学べる日を心から楽しみにしています。



「歯学生共用試験合格証」を手に、
いざ臨床実習



部活練習後にみんなでパチリ

学生からのメッセージ

歯学部で仲間と共に学ぶ

歯学部3年生(2026年度) 重本晃輔（広島県立呉三津田高等学校卒）

入学してからもう2年経ったと思うと、時間の流れの速さと今までの大学生活がとても充実していたという事を実感します。

元々、私は父親が歯科医師で、やりたいことがなかったためとりあえず父の医院を継ごうという考えで九州大学の歯学部を目指しました。しかし、入学して学んでいく中で「口腔から全身の健康に貢献する」という今まで自分になかった考え方を学んだり、友達と共に座学や実習に取り組んだりするうちに、歯科医師は患者の健康や生活の質を守っていくことができるとてもやりがいのある仕事だと感じました。また、歯科医院は今コンビニより多く、歯科医師もどんどん数が増えて過多になっていくという話を耳にしたことがあると思います。実際私もそう思っていました。教授方からの話を聞くと、歯科医師の高齢化やニーズの広がりなどの影響により逆にこれから歯科医師の需要は上がっていくとのことなので、歯科医師は未来がある仕事だと思います。

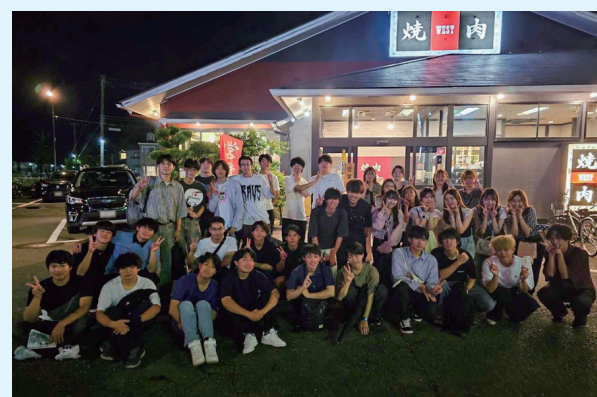
九州大学の歯学部は、学ぶ環境として整っていると思います。歯学の知識だけでなく考え方やプロフェッショナリズムの部分を学べる授業や、1年生では歯学だけでなく様々な分野を学べる授業があり、多角的な学びができます。また、留学プログラムも充実しており、これから重要になる国際的な視点も養うことができます。



生理学実習の様子

歯学部の他の学部と違いたいところは、深い人間関係を作りやすいところです。歯学部は1学年約50人と少なく、ほとんど同じ授業を全員が履修していて、6年間基本的に同じメンバーなのでため常に一緒にいます。そのため、高校までのクラスのように仲良くなれます。歯学部の勉強は難しいというイメージがあるかもしれませんが、友達と協力して教え合いながら勉強すれば基本的には落ちることは無いと思います。

私はまだ専門的なことを学び始めたばかりで道のりはまだまだ長いですが、たくさんの仲間と共に、遊びと勉強のバランスの取れた充実した大学生活を送りながら将来へ向けて日々進んでいます。みなさんに会い、共に進んでいく仲間となれる日を心待ちにしています。



クラス会の様子

学生からのメッセージ

九大歯学部での学生生活

歯学部6年生(2026年度) 久保ひなた（清風南海高等学校卒）

こんにちは。九州大学歯学部6年の久保ひなたです。私は現在、臨床実習生として九州大学病院で臨床実習をしています。臨床実習では、先生方にご指導いただき実際の歯科臨床の場で臨床的な知識や技術を日々吸収しています。これから九州大学歯学部についてお話していきたいと思います。

歯学部1年生は、福岡市西区の伊都キャンパスで1年間教養科目を勉強します。また、週に1回、福岡市東区の病院キャンパスで解剖学や口腔解剖学等の基礎系の科目を受講します。2年生からは福岡市東区の病院キャンパスで歯科医師になるために必要な専門科目を勉強していきます。九大歯学部は春学期、夏学期、秋学期、冬学期の4つに分かれていて、それぞれの学期ごとに試験があります。試験勉強はとても大変ですが、友達と遅くまで勉強をする時間も今となってはいい思い出です。

また、九大歯学部では主に歯学部の学生が主体となる歯学部の部活動があります。ひと学年50人ほどで少ないですが、部活動に所属することで学年を超えた交流ができます。私は、歯学部サッカー部でマネージャーをしていました。部活動は週に数回



卒業後のキャリアパス

研究中の大学院生からのメッセージ

「大学院への進学で開かれる未来」

口腔病理学分野 大学院1年 三森 咲依（熊本県立熊本高等学校卒）

このパンフレットを手にとってくださった皆様、はじめまして。少し先のことはなるかと思いますが、大学6年間の学びを終えた後の進路についてお話ししたいと思います。

学部教育6年間を終えた後、1年の研修期間を得て、大学院に進学するか働きはじめるかを選びます。働き方は①大学で研究や教育に携わる、②歯科医院で勤務する、③行政に関わるという3つに大別できます。

私は、その中でも①の研究の道を目指し大学院へ進学を決めました。6年前、九州大学の歯学部を受験した時の私は、歯学部に行ったら歯科医師になるものだと思っていました。しかし、4年次の口腔病理学の授業中に、先生方のお話に引き込まれたのがきっかけで研究という選択肢を視野に入れました。病理学とは病気の原因とその成り立ちを学ぶ学問です。先生の語る腫瘍の概念はドラマチックでした。その先生は顕微鏡で見える小さな違い、遺伝子レベルでの小さな違いが、腫瘍という大きな病気を引き起すメカニズムを非常に興味深く語ってくださいました。また、口腔病理という分野は基礎研究に位置しながらも、臨床に大きく関わる特殊な基礎分野です。例えば、手術で取り出した組織を手術中に診断する術中迅速病理診断というものがあります。この診断は病気の取り残しがないかを調べたり、術前に悪性・良性の区別が確定できなかった場合にその判断をしたりするという重要な役割をもっています。こういった病理医として活躍できる点も私にとっては魅力的であり、進学を決めた一つの理由となりました。

皆さんも在学中に心惹かれる学問や先生に出会うかもしれません。幸い、九州大学には、4、5年生の時に各々興味のある研究室で実験や研究を体験できるカリキュラムがあります。私もそのカリキュラムが終わるころ

には、誇りをもって語れる自分の研究分野をもちたい、それを仕事にしてみたいと思い始めていました。

ただし、臨床の道を選ばず、研究者になると決めるまでには少々悩みました。今進路に悩んでいる方がいらっしゃったら…進路は一度決めたら引き返せないということはありません。学び続ける意志さえ持ち続けていれば、方向転換しても、迷って立ち止まってみても良いと思います。私も、同じように迷って進んできた先輩方に背中を押していただきました。

もし臨床経験を早く積みたいと考え大学院進学を躊躇するときは、是非次のことを思い出して頂きたいと思います。大学院では、論理的な思考力、情報整理力が身につきます。答えがあって採点されるわけではない、大学入試までとは違う学びが待っています。決して楽な道だとは思いませんが、4年間の研究は思考力を育み、自身を大きく成長させてくれる経験になることは間違いないでしょう。4年間は歯科医師人生の中で見れば短い時間です。臨床の現場で早く一人前になることも素晴らしいことです。興味がある分野にチャレンジしたくなったり、より深く学びたいものを見つけたりしたときには、その4年間の学びはきっとその後の歯科医師人生を豊かにしてくれます。さらにこれからの時代、認定医や専門医の取得が普及していくと思われます。臨床系の大学院がその研修施設を兼ねている場合が多いことも念頭に置いておくとよいでしょう。

私は九州大学での学部6年間の間に様々な友達から刺激を受け、尊敬できる先生も仲間も沢山できました。研修期間を振り返ってみても、周囲の仲間が皆それぞれに自身の進路に悩み、真剣に研鑽を積むという環境下で自分の目標に向かって努力することができました。

九州大学での学びを選んだ私の例がご参考になれば幸いです。皆様が心惹かれるものを見つけたとき、その明るい未来へ羽ばたけるように願っております。

●進路(卒業後臨床研修先について)

令和8年3月卒業生の進路は以下の通りです。(4月1日現在)

九州大学病院	21名
その他の大学病院など	10名
その他	6名

●歯科医師国家試験合格率

	R8	R7	R6
九州大学	83.8%	88.5%	89.4%
全国平均	61.9%	70.3%	66.1%

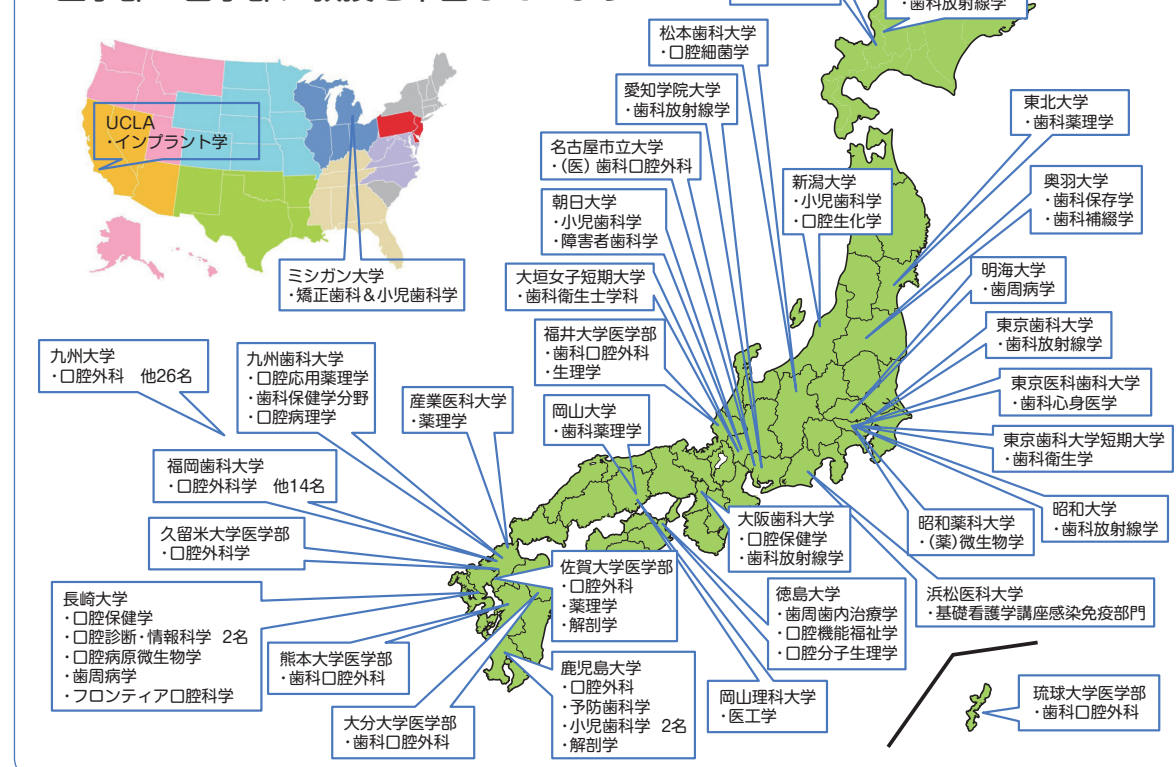
卒業後はどんな所で活躍しているのでしょうか？

九州大学歯学部はこれまでに、多くの優れた歯科医師を輩出してきました。

例えば、臨床の最前線で活躍し、地域医療のリーダーとして活躍している卒業生、歯科医学研究において、後輩に指導を行いながら世界で活躍している卒業生、他大学で歯学教育のリーダーとして活躍している卒業生など、さまざまな分野で活躍し社会に貢献しています。

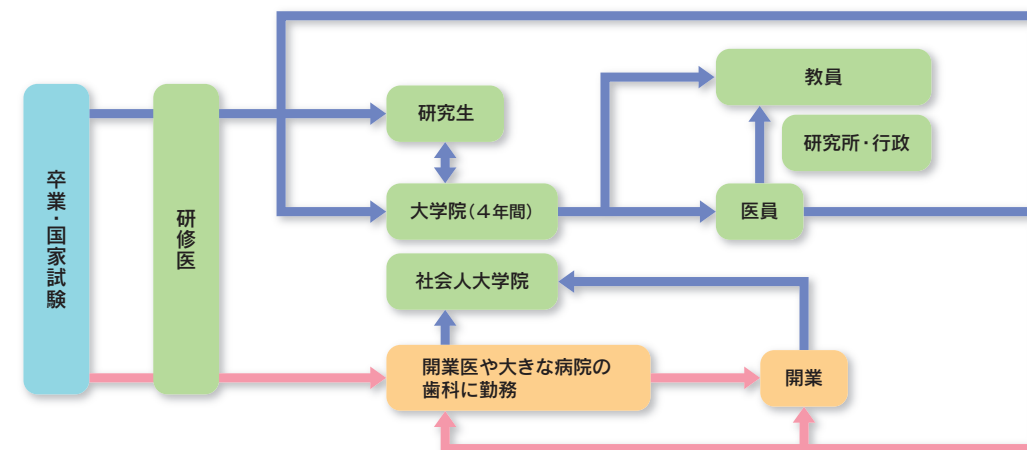
また、九州大学歯学部は九州地区に限らず全国の医学部・歯学部教授を輩出しています。

九州大学歯学部は九州地区に限らず全国の医学部・歯学部教授を輩出しています！



このような人材と設備の充実した九州大学歯学部で学び、グローバル社会で活躍できる歯科医師や研究者を目指しませんか。

卒後の進路については、おおよそ下の図の通りです。



注：この図がすべてのケースを網羅しているわけではありません。

臨床の前線で活躍する卒業生からのメッセージ

医科歯科連携と歯周病治療の最前線 九州大学病院 歯周病科 助教 瀬々 起朗（福岡県私立東福岡高等学校卒）

私は現在、九州大学病院歯周病科で歯周病治療を専門に診療を行っています。九州大学歯学部在籍している頃から「自分の歯を残して噛める」歯周病治療に興味を持ち、卒業後は当院の研修コースで初期研修医を修了したのち、九州大学病院歯周病科に入局しました。

歯周病は、歯の磨き残しによりプラーク(歯垢)や歯石が蓄積した結果、歯周病原菌が出す毒素や体の免疫反応によって歯茎が炎症を起こし、最終的には歯を支える顎の骨を溶かしてしまう病気です。進行すると歯を支えきれなくなり、最終的には歯を失ってしまいます。また、クラウン・ブリッジ・インプラントなどの補綴治療(歯がないところを人工の歯で補う治療)や矯正治療を希望される患者さんにおいても、歯周病がある場合には治療結果に悪影響を及ぼすため、まず先に歯周病治療を行うことが肝要です。

近年、虫歯の罹患率は低下し、8020運動の推進によって高齢者であっても歯の残存数は増加しています。しかし残念なことに、残存歯数が増えたことで、それに呼応して歯周病の罹患率は上昇しています。近年の研究では、歯周病になると肥満や心・脳血管障害、慢性腎臓病などの全身疾患に罹患しやすくなることが報告されています。とりわけ糖尿病は、全身疾患の中で唯一歯周病と双方向の関連があり、「歯周病は糖尿病の第6の合併症」とも言われています。このように、歯周病と全身疾患は密接に関連していることが明らかになっています。私自身、実際の臨床において、歯周病治療により糖尿病の改善を認めた症例を何例も経験しました。さらに、糖尿病合併症になりやすい遺伝子変異マウスに歯周病を発症させて、歯周病と糖尿病の相互増悪関係のメカニズムについても研究を行っています。このように歯周病学は今後、医科領域においても重要な役割を担っていくと確信しています。

歯周病治療では、まず患者さんに歯磨き指導を行い、セルフケアの改善を目指します。また、実際の治療においては、歯根に付着した歯石や歯茎の中の不良肉芽(炎症組織)を除去や歯の適切な咬み合わせのバランスを調整することで歯周組織(歯茎や顎の骨)の改善・安定および再生を目的とした治療を行います。とりわけ、歯茎を切って開いて行う歯肉剥離搔爬術(歯周病の手術)は歯周病科の専門性を活かしたとても有効な治療法であると実感しています。

私は、臨床・研究・教育を通して、歯周病治療は一般歯科、外科、内科的側面を兼ね備えた分野であり、非常にやりがいのある領域だと感じています。歯科に興味を持っている受験生のみなさん、九州大学歯学部で幅広く学び、患者さんの口腔内だけでなく全身の健康にも貢献できる歯科医師を目指してみませんか？ぜひ一緒に、歯科医療の未来を切り拓いていきましょう！



研究室紹介

各研究分野では学生教育や診療を活発に行っているほか、世界をリードする研究も精力的に進めています。

口腔常態制御学講座(5研究分野)

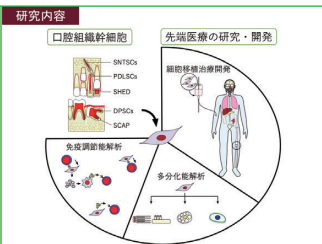
分子口腔解剖学分野

分野責任者: 山座 孝義 教授



うちの自慢

- 幹細胞による難病治療の開発を展開



歯科医学の入り口から最先端まで
—教育と研究で世界の歯科医学に貢献します!—

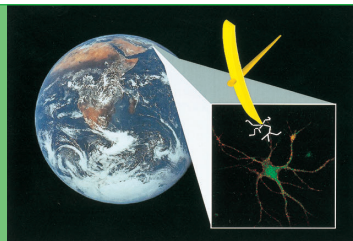
口腔細胞工学分野

分野責任者: 自見 英治郎 教授



うちの自慢

- 閉経後骨粗鬆症と体重増加を制御する本質的な共通分子メカニズムの解明と治療戦略の開発
- 口腔癌による顎骨浸潤の分子機構の解明で世界を牽引



体＝細胞のしくみを極めよう、
世界を舞台に戦いながら。

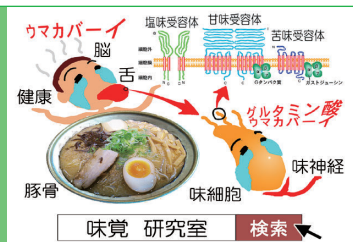
口腔機能解析学分野

分野責任者: 重村 憲徳 教授



うちの自慢

- 味覚情報の口腔-脳-腸連関を介した食調節機構の解明で世界をリード



美味しさって何だろう？
味覚の窓から身体の不思議な仕組みを見てみよう

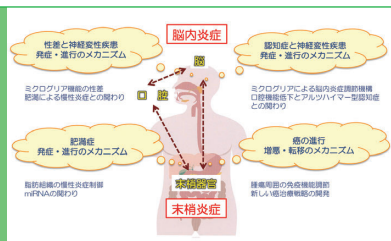
口腔機能分子科学分野

分野責任者: 兼松 隆 教授



うちの自慢

- 口腔と全身をつなぐ炎症研究で世界をリード
- 我々が発見した分子による新たな癌転移メカニズムの研究を展開



口腔科学の枠を超えて
研究者の一步を踏み出そう

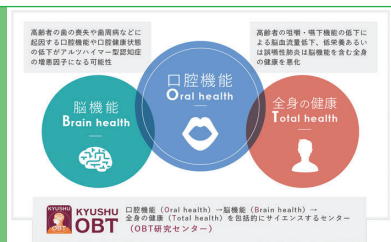
口腔脳機能病態学分野

分野責任者: 安河内 友世 教授



うちの自慢

- 健全な口腔機能を維持するための戦略的研究
- 口腔機能低下と脳・全身疾患との因果を包括的に理解する研究



心身の健康は口腔から

口腔保健推進学講座(3研究分野)

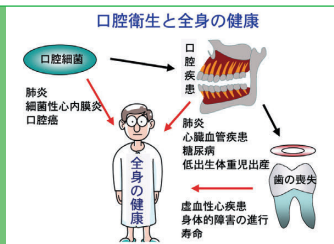
口腔予防医学分野

分野責任者: 竹下 徹 教授



うちの自慢

- 疫学アプローチによる臨床歯科医学エビデンス構築の豊富な実績
- 口腔マイクロバイオーム研究で世界をリード



病は気から、健康は口から！
だから今予防歯科

小児口腔医学分野

分野責任者: 福本 敏 教授



うちの自慢

- 小児・障がい児(者)の口腔疾患の治療と予防研究で世界を牽引
- 口腔組織を利用した再生医学研究で世界をリード



健康な乳歯は美しい永久歯の源だよ。
健康長寿に貢献できる歯科医師を目指そう。

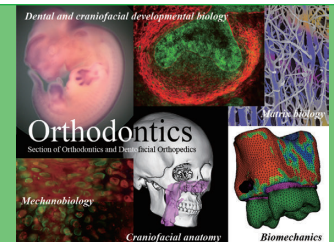
歯科矯正学分野

分野責任者: 高橋 一郎 教授



うちの自慢

- 不正咬合治療の未来を切り拓き、患者さんの健康と笑顔に貢献する研究で我が国をリード



不正咬合の診断法や治療法を改善するために先端科学を応用し、
未来の患者さんの役に立つ研究を展開しています。

口腔機能修復学講座(5研究分野)

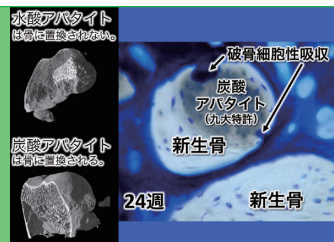
生体材料学分野

分野責任者: 石川 邦夫 教授



うちの自慢

- 世界初、骨組成の炭酸アパタイト人工骨置換材の開発・実用化に成功
- 世界初、ポリエーテルエーテルケトンへの骨伝導性付与に成功
- 世界初、多孔体形成セメントの開発に成功



九州大学が開発した炭酸アパタイトは
骨に直換される新しい材料です。

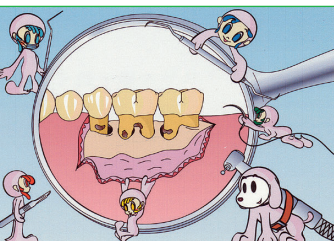
歯周病学分野

分野責任者: 選考中



うちの自慢

- 歯周医学のフロントランナー
- オンリーワンの炎症/再生研究



歯周病は全身の病気にも
影響を与えているんだよ。

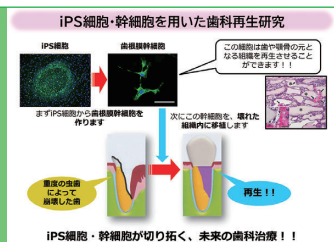
歯科保存学分野

分野責任者: 前田 英史 教授



うちの自慢

- 歯の保存と再生の研究で世界をリード



歯や歯周組織を再生させる!!
先進の治療で歯をできるだけ保存する!!



研究室紹介

クラウンブリッジ補綴学分野

分野責任者：熱田 生 教授



うちの自慢

- 口腔機能の改善に寄与できる歯科臨床と研究
- 安全・安心なインプラント治療のシステム構築



より良い歯科治療でより良い人生を

インプラント・義歯補綴学分野

分野責任者：鮎川 保則 教授



うちの自慢

- インプラント治療関連材料のさらなる発展に向けた研究
- エビデンスベースデジタルデンティストリーのシステム構築



生涯、美味しく食べるために 私たちができること！

口腔顎顔面病態学講座(6研究分野)

口腔病理学分野

分野責任者：清島 保 教授



うちの自慢

- 歯と歯周組織の再生療法を目指した遺伝子学的および分子生物学的研究の展開
- 発生過程と腫瘍形成に共通する分子基盤を解明するための革新的アプローチ



「歯の再生」、「歯周組織の老化」それから「口腔癌」に関する研究を行っています。

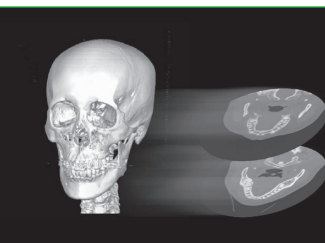
口腔画像情報科学分野

分野責任者：筑井 徹 教授



うちの自慢

- 最新の医療画像を用いた顎顔面疾患の診断基準に関する研究
- 画像情報処理による診断支援を展開



あなたの真実の姿がここに・・・

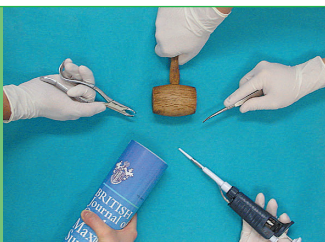
顎顔面腫瘍制御学分野

分野責任者：川野 真太郎 教授



うちの自慢

- 口腔腫瘍などの難治性口腔疾患の病因・病態を解明し、新規治療法開発への橋渡しとなる研究を展開



九大世界のその名と輝け、見よ我が教室新人群れたり ー北原白秋作詞教室歌より

口腔顎顔面外科学分野

分野責任者：森山 雅文 教授



うちの自慢

- デジタルトランスフォーメーション(DX)を応用した手術法の開発
- 臨床免疫学を基盤とした口腔粘膜疾患の病因解明



口腔外科は君を、哲学者か生物学者か彫刻家に変身させるだろう。

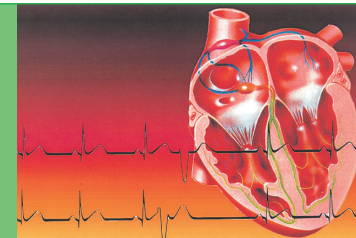
歯科麻酔学分野

分野責任者：横山 武志 教授



うちの自慢

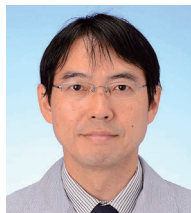
- 周術期の糖代謝とインスリン抵抗性に関する研究で我が国をリード
- 独自の歯科治療中の心停止に対する対処方法がヨーロッパ蘇生評議会ガイドラインに



身体の状態を把握し、その変化に対応できる 歯科医師 * * * それが歯科麻酔科医

高齢者歯科学・全身管理歯科学分野

分野責任者：柏崎 晴彦 教授



うちの自慢

- 超高齢社会のニーズに対応する臨床研究で世界をリード



Dentistry is a Work of Love. (思想家 内村鑑三氏筆) 歯科は愛の仕事である。

総合歯科学講座(2研究分野)

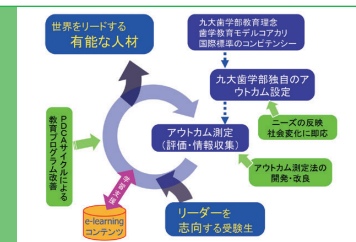
歯科医学教育学分野

分野責任者：築山 能大 教授



うちの自慢

- 研究・臨床・教育のリーダーを養成するため、課題解決型の教育を展開
- 生涯学び続ける「アクティブラーナー」を養成



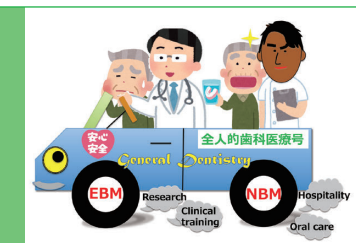
総合診療歯科学分野

分野責任者：和田 尚久 教授



うちの自慢

- 生活習慣病や全身疾患に関連した歯科的アプローチに関する研究
- 全人的な歯科医療を実践する歯科医師の育成および教育研究



患者さんが満足する全人的な歯科医療の発展を目指して、臨床・人材教育・研究を行っています！

歯科先端医療評価・開発学講座(寄附講座)

歯科先端医療評価・開発学講座

講座責任者：鮎川 保則 教授



うちの自慢

- 最新の歯科材料や医療技術の中から、より優れたものを選択し現場に届ける



患者さんの安心安全のために、術者の便利のために、企業の開発のために一生懸命研究しています！



OBT研究センター紹介

歯学の強みを生かした研究で国民のQOLの向上を目指す

OBT研究センター

Oral health・Brain health・Total health (OBT) 研究センターは、平成28年度に口の健康が脳の活性化を導き、全身の健康へ寄与することを包括的にサイエンスする研究センターとして設置されました。OBT研究センターは歯学研究院でキラリと光る若手・中堅層を分野ヒエラルキーから抜き出し、Principal Investigator (PI) として独立させ、各自の研究をより発展させることを目指しています。これまでに当研究センターから4名が教授として独立致しました。令和6年度から2名の新たなメンバーを加え、現在は、センターを統括する教授1名に加え、歯学研究院初的女性教授1名、准教授3名、講師1名、助教2名が所属しています。OBT研究センターは、活発な研究交流と挑戦的な取り組みによって、常に活性化し続ける組織を維持しています。



主な研究内容

1. 妊娠母体の栄養状態による次世代生活習慣病発症メカニズムの解明

超高齢社会を迎えた我が国では、「口腔機能の健康」と「適切な食生活と栄養摂取」が健康寿命延伸とQOL向上のために重要視されています。従来、病気の原因は、主に遺伝や出生後の環境にあると考えられてきましたが、出生前(妊娠母体)の栄養状態も、子の病気の発症に影響を及ぼすことが分かってきました。そこで、研究チームでは、妊娠母体が摂取する各種栄養素やその代謝産物が、子の各種生活習慣病の発症や進行に及ぼす影響を追究しています。

2. アルツハイマー型認知症に性差が生じるメカニズムの解明

アルツハイマー型認知症は女性に多くみられ、その患者数は男性の約2倍であることが知られています。しかし、そのメカニズムはまだわかっていません。慢性炎症(肥満、歯周病など)、閉経や加齢による性ホルモンの変化など、生体恒常性が破綻したときに、脳内の免疫応答の性差がアルツハイマー型認知症発症・進展の性差となって現れるのではないかと考えて研究を行っています。性差が生じるメカニズムを明らかにすることで、より個別性の高い予防戦略の提案と、新しい治療薬開発のきっかけとなることが期待されています。

3. 歯周病のアルツハイマー病への関与メカニズム

重度歯周病の罹患は認知機能低下と正相関し、歯周病菌のPorphyromonas gingivalis (Pg) 菌の内毒素LPSが認知症の7割を占めるアルツハイマー病患者の脳内に検出されています。我々はPg菌のアルツハイマー病への関与メカニズムの解明に取り組んでおり、これまでPg菌とそのLPSがアルツハイマー病脳病態を誘発し促進する、全身炎症を増大させる、全身でアミロイドβ産生を誘導する、全身のアミロイドβを脳内輸入させるといった多面的にアルツハイマー病の誘発と病態進行に関与することを明らかにしてきました。歯周病のアルツハイマー病への関与機序を究明し、認知症予防のため有効な情報発信が期待されています。

4. 唾液腺異常の分子基盤

シェーグレン症候群やIgG4関連唾液腺炎などの唾液腺疾患は、唾液分泌が低下し、口腔粘膜疾患の増加を引き起こすだけでなく、摂食嚥下障害により誤嚥性肺炎を招くことがあります。しかし、その治療法としては唾液分泌促進薬などの対症療法しかなく、根治的な治療法は存在しません。そこで、それらの唾液腺疾患における唾液腺障害のメカニズムを解明することにより、新たな標的分子治療法の確立を目指します。

5. 甘味感受性調節に関わる分子・生理基盤の解明

五つの基本味(甘味、塩味、酸味、苦味、うま味)のうち、甘味は生体活動にとって必要不可欠なエネルギー源を示すシグナルであり、肥満や生活習慣病と密接に関連しています。これまでに、甘味感受

性の促進および抑制機構について明らかにしてきましたが、甘味受容機構の多くは未だに不明です。甘味感受性の調節に関わる分子・生理学的基盤の全容を解明することで、肥満や生活習慣病の予防法の確立を目指します。

6. 歯周病と全身疾患の相互関連におけるメカニズムの解明

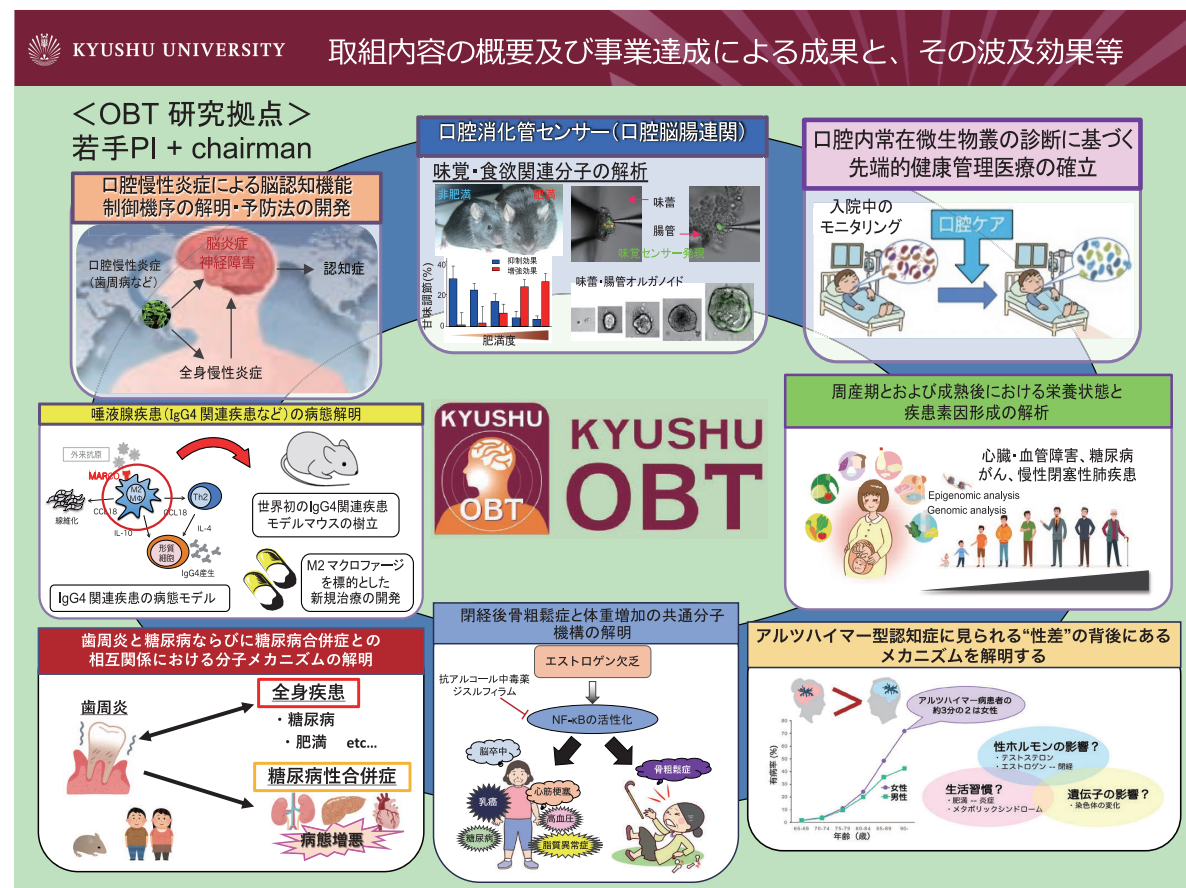
歯周病は口腔内局所の疾患であるとともに、様々な全身疾患に影響を及ぼすことが臨床研究より知られています。また、糖尿病などの全身疾患があると、歯周病が増悪しやすいことも知られています。一方で、歯周病と全身疾患の相互関連についての分子メカニズムの多くはいまだ不明です。そこで、マウス実験と臨床研究の両面のアプローチから、歯周病と全身疾患、とりわけ糖尿病・糖尿病合併症の相互関連における新たな分子メカニズムの解明を目指します。これにより、糖尿病など歯周病が増悪しやすい患者さんにとって効果的な歯周病治療・予防法の確立や、歯周治療による健康増進を目指した幅広い医科歯科連携の構築に貢献することが期待されます。

7. 閉経後骨粗鬆症と体重増加の共通分子機構の解明

閉経後女性ではエストロゲン欠乏により骨密度低下(骨折リスク増大)と内臓脂肪増加(メタボ、乳がんリスク上昇)が起こり、健康寿命延伸の課題です。既存研究では骨粗鬆症に重点が置かれる傾向があり、両者の共通メカニズムは未解明です。閉経後骨粗鬆症動物モデルを用いてエストロゲン欠乏により、骨・脂肪組織でNF-κBの活性化が起こることを明らかにしました。今後この共通機構を解明することで閉経後の骨量減少や体重増加の予防や治療薬探索を目指します。

8. 口腔機能が全身の健康状態に与える影響の検討

咬むことや飲み込む機能が回復することは歯科医師にとっての喜びです。しかしながら、これらの機能は年齢や病気などの影響により、低下することがあります。そこで、病院の患者さんや地域にお住いの住民の方を対象に、口腔機能を評価し、それらが認知機能や運動機能にどのように関連しているのかを調査しています。さらには、口腔機能を改善させるアプリケーションソフトの開発をしており、口腔機能に着目した介護予防法の確立を目指しています。





DDR研究センター紹介

口腔組織の発生を理解し再生医療を先導する

DDR研究センター

近年の急速な医学研究の発展により、再生医療等の医療技術が開発され、臨床に応用されるようになってきました。歯科においても齲蝕や歯周病の病態解明や治療技術の開発、予防医学の推進が積極的に行われ、これら疾患がコントロール可能な状況になってきました。しかし超高齢化社会においては、高齢者の口腔機能低下や機能崩壊（オーラルフレイル）が問題となり、これらが誤嚥性肺炎、脳血管疾患、高血圧や糖尿病といった生活習慣病の発症に関わることが明らかになってきました。そこで失われた口腔機能を回復する目的で、生体内に存在する組織幹細胞と人工生体材料を組み合わせた再生医療技術の開発、さらに組織幹細胞を利用した疾患モデルの作出による治療法開発、産学官連携による人材育成を目的とし、歯学研究院では歯科発生再生研究 (Dento-craniofacial Development and Regeneration research) センターを令和3年度に設置し、世界最先端の教育・研究・医療に基づくイノベーションの創出を目指します。



主な研究内容

1. 歯髄由来組織幹細胞(歯髄幹細胞)の大量生産技術の開発

歯はエナメル質、象牙質、セメント質といった硬組織と歯髄と呼ばれる軟組織によって構成されています。歯髄の中の約0.1-0.5%程度の組織幹細胞と呼ばれる細胞が存在し、この細胞は神経を作る細胞、骨を作る細胞、脂肪を作る細胞など、様々な細胞に分化することができることから、再生医療に利用可能な細胞として着目されています。しかしながら含まれる細胞がそれほど多くないことから、効率良い細胞精製法の開発や人工的に組織幹細胞を誘導する技術の開発に取り組んでいます。大量生産が可能になることで、1つの歯から得られる組織幹細胞で、多くの患者の治療に応用することができます。

2. 歯髄幹細胞を用いた全身疾患治療法の開発

歯髄に存在する組織幹細胞である歯髄幹細胞は、各種細胞に分化するのみならず、免疫反応の調整にも大きく関わっています。また細胞の死に関しても、それを抑制する効果も発見され、一つの細胞が様々な機能を有していることがわかってきました。マウスなどの動物モデルにおいては、脳梗塞や脊髄損傷などにおいて歯髄幹細胞を疾患部位へ注入することで、これら疾患の症状を改善します。また肝臓の機能障害や腸の蠕動運動障害を示す疾患においても、歯髄幹細胞を用いることで、これら疾患の治療に応用できる可能性が出てきました。このように歯髄幹細胞を様々な疾患へ治療に応用するために基盤研究を実施しています。また歯髄幹細胞の多分化能を利用し、様々な全身疾患の病態を歯髄幹細胞を用いて試験管内で再現することで、病態の発症原因や治療薬剤の探索に応用しています。

3. 各種器官構築技術の開発

再生医療の最終ゴールは、必要な器官を丸ごと再生することです。歯科においては口腔内に存在する歯や唾液を産生する唾液腺を再生することができれば、歯を失っても歯を再生し、唾液分泌機能を

を改善することで、摂食や嚥下といった口腔機能を回復させることができます。また歯や唾液腺の発生は、毛や肝臓、肺、腎臓等と共通の発生メカニズムを有することから、歯の器官構築技術の開発は、多くの器官形成に応用可能な技術となります。そこで細胞の3次元構築技術を用いて、歯の人工的な誘導技術の開発を行っています。

4. 歯の発生過程に重要な遺伝子群の網羅的解析

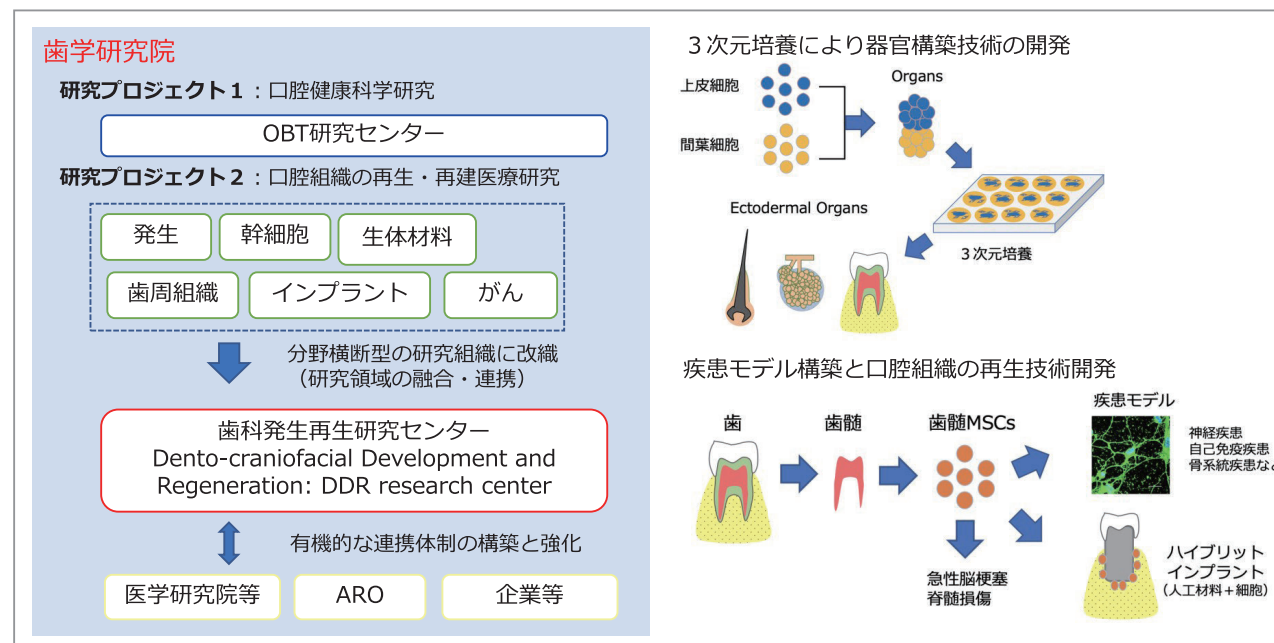
歯を再生させるためには、歯がどのようにして形成されるのかしっかり理解する必要があります。次世代シーケンサー等の革新的な分子生物学的技術の発展により、歯を構築する一つ一つの細胞が、どのような遺伝子を発現しているかを時空間的に網羅的に把握できるようになってきました。また個々の遺伝子がどのような役割を演じているかを知ることでも重要です。歯に特徴的に発現する遺伝子の機能解析により、歯を構成する細胞群の分化メカニズムを詳細検討しています。

5. iPS細胞等を用いた歯の再生技術の開発

iPS細胞は、体を構成する全ての細胞に分化可能な万能細胞です。歯がどのようにできるのかということ明らかにしていく過程で、歯の発生に重要な分子を見つけ出し、その分子の機能を制御することで、iPS細胞から歯の形成細胞であるエナメル芽細胞(エナメル質を作る細胞)、象牙芽細胞(象牙質を作る細胞)を人工的に誘導する技術を開発しました。またこれら歯を作る細胞を組み合わせることで、iPS細胞から歯を作ることも可能になっています。しかし実際に臨床に応用するためには、できた歯の安全性の確保、歯の大きさや形の制御が必要になってきます。より正確で確実な歯の再生技術の開発に取り組んでいます。

6. 新規生体材料を用いた歯周組織再生

歯周病は、歯を支える歯槽骨の破壊を伴う疾患であり、支える骨の喪失により歯が脱落します。またそこにインプラントなどで人工的な歯を再建する場合にも、失われた骨を再生することは極めて重要です。これまで多くの人工骨補填材が開発されてきましたが、生体の骨と完全に類似のものを作るには至っていません。そこで生体の骨の特徴を理解しながら、安価で効率的に骨を再生する材料の開発に取り組むとともに、生体親和性の高いインプラント体についても企業と連携しながら開発に取り組んでいます。





『災害医療チームの中で、命と健康を守る歯科医師へ。』 ～災害時に必要とされる次世代歯科医療人を育成～

口腔医療連携学分野、高齢者歯科学・全身管理歯科学分野 講師 山添 淳一（兵庫県立星陵高等学校卒）

近年、日本各地で大規模災害が発生し、医療には「支援」と「受援」の双方を見据えた体制整備が求められています。九州大学歯学部では、JDAT（日本災害歯科支援チーム）やDMAT（災害派遣医療チーム）などの災害医療チームの一員として、被災者の命と健康を守るために必要とされる歯科医師の育成に取り組んでいます。

災害時に歯科医師が担う役割は、口腔ケアだけではなく。避難所における誤嚥性肺炎の予防、摂食嚥下支援、栄養状態の維持、感染対策、要配慮者への口腔機能管理、さらには身元確認など、多職種チームの中で専門性を発揮することが求められます。本分野では、医師・看護師・言語聴覚士・歯科衛生士・行政・歯科医師会と連携し、災害フェーズ（超急性期から復興期まで）に応じた歯科医療のあり方を教育・研究しています。



学生教育では、地域医療・高齢者歯科・全身管理歯科の学びを基盤に、災害医療を想定した多職種連携教育やシミュレーション教育を実施しています。支援側として被災地へ赴く力だけでなく、自施設が被災した際に医療を継続する「受援力」も重視し、組織の中で判断し行動できる歯科医師の育成を目指しています。



さらに、歯科AIや医歯工連携研究を通じて、災害時の情報共有や遠隔支援など新しい歯科医療の可能性にも挑戦しています。平時の地域包括ケアから非常時の災害対応までを一体的に学ぶことで、社会から求められる次世代の歯科医療人を育てています。

災害多発時代において、歯科医療は「歯を治す医療」から「命と生活を守る医療」へと役割を広げています。九州大学歯学部では、社会の中で必要とされる歯科医師を育成し、地域とともに未来の医療を創造していきます。



避難所で嚥下体操（バカ体操など）



『患者さんが安心安全な歯科医療を受けられるための研究』 ～患者と術者と企業をつなぐ存在を目指します～

歯学研究院 歯科先端医療評価・開発学講座 助教 河崎 雅弘（千葉県立千葉東高等学校卒）

歯の治療をしてもらったことがありますか？

歯科医院で使われている道具や材料は数え切れないほどあります。そのどれを使えば患者さんにとって一番良い治療になるのでしょうか？ 本講座では、「痛くない」「噛める」「きれい」「はずれない」「壊れない」はもちろんのこと、



当講座の研究室（歯科製品の評価・開発のために日々頑張っています）

「より美しくなりたい」「より美味しく食べたい」、そして、その状態を「より長く続けたい」といった患者さんのニーズに応えられる最新の歯科材料や医療技術を、評価し、改善し、開発することを目指しています。

講座開設から6年が経ちました。株式会社ジーシーや他大学等との産学連携を通して、患者さんだけでなく術者のために今後も変わらず研究を進めてまいります。



2019年4月1日開設



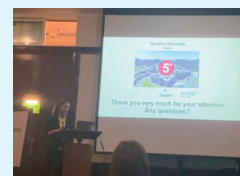
留学生からのメッセージ

九州大学大学院 歯学部 口腔病理学分野 2025年度博士課程修了 Dania Zuhier Ragheb Alkhatib

皆様、こんにちは。
もう一度ご挨拶させていただきます。

私のことを覚えていらっしゃいますか。私はパレスチナ出身のダニア・アルカティブです。今日は、九州大学における私のストーリーの続きをお話し、歯学部口腔病理学専攻の博士課程4年目についてご報告させていただきます。

4年目にあたり、私は明確な目標を立てました。それは、九州大学および歯学部に誇りをもたらすことです。この責任を胸に、そして歯学部の優秀な博士課程学生47名の中から最優秀発表賞を受賞したことにより、多大なるご支援をいただき、イギリスへ渡航する機会を得ました。21時間以上にも及ぶ長旅の後、サウサンプトンで開催された英国口腔顎顔面病理学会の会合で、口腔がんに関する研究発表を行いました。その場で出会った専門家の方々に、九州大学が新しい国内ランキング制度において日本第5位の大学となったことをお伝えできたことを、大変誇りに思います。海外で日本を代表する機会をいただいたことは、大きな光栄でした。



英国口腔顎顔面病理学会での口演発表（イングランド）

さらにその年、私はもう一つ大切な使命を担っていました。スペイン・バルセロナで開催されたInternational Association for Dental Research（国際歯科学研究学会）のグローバル・ハットン賞において、基礎研究部門で第1位を受賞するという栄誉をいただきました。世界中の優秀な研究者の中で、私の大切な祖国パレスチナを代表することができました。本研究はパレスチナおよびイギリスの研究機関との国際共同研究として行われ、頭頸部癌を対象としています。九州大学を3つの所属の一つとして発表できたことにより、自分が国際的な研究者の一員であることを強く実感しました。



国際歯科学研究学会（IADR）Global Hutton賞 第1位受賞（バルセロナにて）

この経験は非常に充実したものでした。口頭発表、ポスター発表に加え、口腔病理学分野のポスターセッションにて座長も務めさせていただきました。この受賞は、困難な状況の中でも努力を続け、教育と研究を大切にしているパレスチナの人々の姿を世界に伝える機会となり、私にとって非常に大きな意味を持つものでした。

日本に戻った後、この成果はメディアにも取り上げられ、読売新聞の取材を受ける機会をいただきました。その後、University of Cambridgeで開催された学会にも参加し、頭頸部癌に関する研究を発表し、ケンブリッジ頭頸部癌シンポジウムにおいて最優秀ライトニングトーク賞を受賞いたしました。

また、研究および臨床の両面でのスキル向上にも積極的に取り組みました。スコットランドにて臨床フェローシップを経験し、口腔病理学、口腔外科、公衆歯科など複数の分野で研修を行いました。さらに、日本の企業でのインターンシップにも参加し、日本の職場文化への理解を深めました。その準備として日本語学習にも力を入れ、日本語能力試験に合格し、コミュニケーション能力の向上に努めました。

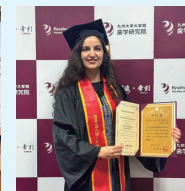


スコットランドでの臨床フェローシップ

そして何よりも、この一年の最大の目標は博士課程の修了でした。無事に博士論文の審査および最終試験を終え、九州大学歯学部口腔病理学分野において博士（歯）



学位論文公開講演



博士（歯学）の学位記を手にして

を取得することができましたことをご報告申し上げます。2年前に私が立ち上げた博士課程スタディサークルを覚えていらっしゃいますか。最後は嚢胞性疾患に関する講義で締めくくりました。また、伊都キャンパスにて主に日本人学生を対象に、学術コミュニケーションに関する特別講義を行う機会もいただきました。学生と

教員のより良いコミュニケーションについてお話しし、学生がどのようにして授業をより良くできるかについて考察しました。九州大学での初めての授業経験でしたが、大変貴重な経験となりました。学問と研究に対する私の強い情熱に触発され、高等教育における教育力向上を目指し、「Preparing Future Faculty Program」の一環である「Course Design in Higher Education」を修了いたしました。

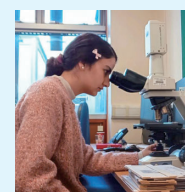


客員講師（九州大学伊都キャンパスにて）

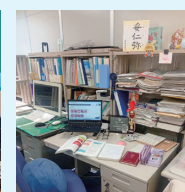
また、伊都キャンパスで開催されたアジアウィークにも参加し、アジア・太平洋賞の学術イベントにて研究発表を行いました。多くの素晴らしい研究者と出会い、多くを学ぶことができました。今年で、祖国パレスチナに帰国していない4年目となります。日本での学びに集中し、パレスチナ、日本、そして九州大学に誇りをもたらすことを目標としてきました。

この道のりの中で、私は多くの素晴らしい方々と出会い、真の成功やリーダーシップは、人間性、公平さ、正義、そして誠実さに基づくものであると学びました。これから新しく入学される皆さんへのアドバイスは、自分自身に集中し、自分の道を信じてください。そして、誰もが輝く場所を持っていることを忘れないでください。他人を下げる必要はありません。

家族、先生方、友人、学生の皆さん、学生支援の方々、日本で出会った家族のような存在の方々、そして福岡の皆様、これまで私を励まし、支え、より良い自分へと成長させてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。皆様の温かさや信頼は、私の歩みに大きな力となりました。



真剣な眼差しで顕微鏡観察



博士課程4年間に打ち込んだ机

パレスチナにはこのような言葉があります。「誰かに埋められても、種のように成長し、より強く美しく花を咲かせなさい。」最後に、九州大学での新たな歩みを始める皆さんのご活躍を心よりお祈り申し上げます。九州大学を選ばれたことは、とても素晴らしい選択です。



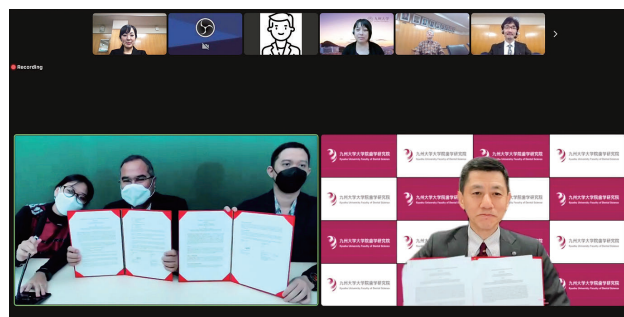
広がる国際交流

2021年4月に、歯学研究院に国際推進室が設置されました。この組織は、教員と事務職員で構成されており、部局内および大学全体の国際頭脳循環を活性化することを目的として、様々な活動をしています。

国際推進室の主な活動・役割は以下の通りです

1. 海外協定校の拡充

これまでの協定校に加え、最近、インドネシアのAIRLANGGA大学(学術交流協定及び学生交流協定、2022年)と、韓国の延世大学と(博士課程ダブル・ディグリー協定、2023年)が新たな協定校に加わりました。AIRLANGGA大学、延世大学は、それぞれの国における最難関大学のひとつです。特に、延世大学との博士課程ダブル・ディグリー協定の締結では、条件を満たせば、九州大学と延世大学の博士号を両方取得することが可能となり、当学府のグローバル人材育成がさらに加速することが期待されます。また、当学部・学府では、九州大学J-MENAオフィスや、トルコ・アンカラオフィスと緊密な連携をとりながら、中東地域の大学との国際連携の可能性について活発な協議を行っています。



AIRLANGGA大学との調印式

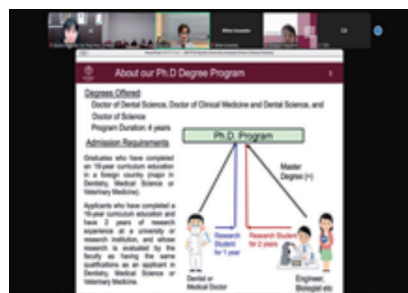


延世大学とのダブル・ディグリー協定調印式

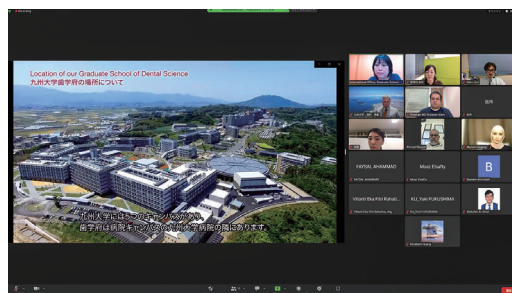
2. 留学生のリクルート及び入国後のサポート

当学部・学府の魅力をより多くの留学生に発信するために、オンラインを活用した留学フェアに積極的に参加しています。留学フェアでは、出願方法や学費などの詳しい説明だけでなく、教員や在学中留学生との交流も可能です。また、当学府では、文部科学省の「国費優先配置」プログラムに採択されており、中東・北アフリカからの留学生を積極的に受入れています。

また、国際推進室では、サポーター制度(学生による留学生来日初期の日常生活支援プログラム)と連携して、来日前後の留学生のサポートも行っています。サポーター学生は、留学生の新生活のセットアップ(役所や銀行での手続きなど)を手助けします。このような制度の下で、当学部・学府での学生同士の異文化交流が自然に育まれています。



トルコの大学生向けの日本留学フェア



九州大学主催のVirtual Graduate Study Fair



サポーターのみなさん

3. 日本人学生の海外留学促進

2026年4月現在、九州大学は34か国の149大学と大学間協定を締結しています。さらに、歯学部では、2つの大学と部局間交流協定を締結しています。当学部・学府の学生は、それら協定の下で、短期間(数週間～1か月)あるいは長期間(1学期～1年以内)の交換留学プログラムに参加することができます。また、それらの海外留学を支援するための九州大学歯学部・歯学府学生教育支援基金も設けられており、一定条件を満たせば、規定内での支援金が支給されます。

最近の当該基金の留学支援実績は下記のとおりです。

- インドネシアAIRLANGGA大学サマースクール(2025年8月25日～8月29日:合計4名)
- カナダ英語研修(2025年8月31日～9月29日:合計2名)
- 釜山大学訪問研修(2026年2月22日～2月24日:合計8名)



AIRLANGGA大学サマースクール



カナダ・VICTORIA大学英語研修



釜山大学訪問研修

4. 同窓生などを通じた新規国際ネットワークの構築・広報活動

当学部・学府では、人と人との繋がりをとても大切に思っています。1988～2010年JICA主催歯学教育プログラムでは、合計248人の外国人歯科医師研修生が当学部を訪れました。歯学国際推進室では、このJICA歯学教育プログラム参加者や帰国留学生などとの持続的な交流を願い、2021年8月に第1号のニュースレター(日英二か国語)を発行し、定期的にJICA歯学教育プログラム参加者や帰国留学生などに配信しています。2026年4月現在、合計14報を発行しています。また、2022年に当学部・学府のプロモーションビデオ(日英二か国語)を作成し、当学部・学府のホームページと九州大学のYouTubeに掲載したり、2023年に英語版の歯学部・歯学府紹介パンフレットを作成することで、世界中から当学部・学府の情報収集が可能となりました。我々は、このような広報誌を通じて、当学部・府と繋がりのある人との関係をより一層広く深く結んでいくことを望んでいます。



プロモーションビデオ撮影中



プロモーションビデオに協力してくれた留学生



日英のニュースレター

このように、九州大学歯学部では、将来、国内外でグローバルに活躍する人材を歓迎しています。皆様の入学をお待ちしています！

当学部と学府のプロモーションビデオは右記のQRコードにアクセスすることで見ることができます！





アイルランガ大学サマープログラムに参加して

歯学部5年生(2026年度) 金 成訓(福岡県立筑紫丘高等学校卒)

こんにちは。私が参加したアイルランガ大学短期研修は、教科書の中で知る「海外」ではなく、実際に世界を体感できるプログラムです。日本(鹿児島大学・大阪大学・広島大学)だけでなく、マンチェスター、ギリシャ、ベトナム、シンガポール、マレーシアなど、多くの国の大学から学生が参加し、キャンパスはまるで小さな国際社会のようでした。英語だけでなく、さまざまな文化や価値観が自然に行き交う環境は、日常とはまったく異なる刺激に満ちていました。

海外の大学生は知識の幅が広く、授業中の発言や質問の鋭さに刺激を受けると同時に、「自分ももっと学びたい」「このままではいけない」と強く感じました。グループワークや意見交換を通して、考え方の違いを受け入れながら議論を深める経験は、大きな学びとなりました。また、食



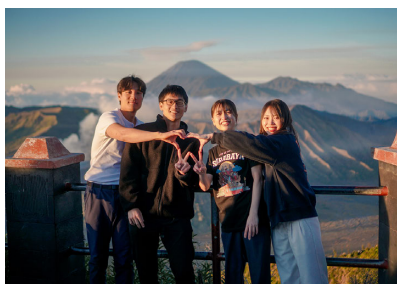
まさに国際交流

事や生活リズム、物事の捉え方の違いなど、日常の中にも発見が多く、驚きの連続でした。最初は戸惑う場面もありましたが、交流を重ねるうちに自然と視野が広がり、自分自身の成長を実感できました。

九州大学歯学部には、このように学生のうちから世界とつながり、海外の仲間と学べる環境があります。高校生の皆さんにとって、「将来の自分」を少し先取りし、世界を舞台に学ぶ第一歩となるこのプログラムは、九州大学歯学部への進学を考える大きな魅力の一つになるはずです。



小学校訪問



プロモ山にて

2025年度釜山大学校訪問研修に参加してみて

歯学部4年生(2026年度) 岡田芽久(大阪女学院高等学校卒)

私は今回、2025年7月と2026年2月に行われた釜山大学との交流会に参加しました。2025年7月は、釜山大学の歯学部生の方々が九州大学に来校し、キャンパスや病院の見学をされました。また、参加した私たち九州大学の歯学部生とも、食事や福岡観光を通して交流をしました。そこでは、英語や日本語、韓国語を交えた会話をはじめ、韓国や日本の文化の共有など、数日間の交流を経て、楽しく交流することができました。

2026年2月には、私たち九州大学の歯学部生が釜山大学へ訪れました。3日間釜山を訪れ、釜山大学の歯学部生の方々が釜山大学のキャンパスや病院、釜山の名所などを案内してくれました。ここでは、VR技術を用いた機械を実際に体験させてもらったり、たくさんの学生さんが勉強されている姿を直接見たりと、刺激をもらうことが多かったです。

私は、このようなプログラムを通して本当に貴重な経験をする事ができ、参加してよかったと思いました。他国で同じ歯学部に通う学生同士の交流はなかなかできないことです。普段あまり使わない英語で会話することは不安でしたが、実際に難しかったですが、私の身振り手振りや拙い英語をく



み取ってくれて、楽しく交流することができました。また、日本語を勉強されている学生の方々がいて、私ももっと英語や韓国語を勉強して、たくさんお話できるようになりたいと刺激を受けました。

海外の方との交流に不安があったとしても、楽しかった、参加してよかった、という気持ちが強く残るようなプログラムでした。



カナダ英語研修に参加して

歯学部5年生(2026年度) 南 健斗(熊本県立熊本高等学校卒)

私は九州大学歯学部の支援を受け、カナダ・ビクトリアにあるビクトリア大学の英語研修プログラムに参加しました。穏やかな街並みと豊かな自然に囲まれた環境の中で、約1か月間、実践的な英語を学びました。フェリーで島へ向かう途中には美しい景色が広がり、到着時には野生のシャチを見ることもでき、カナダならではのスケールの大きさを感じました。

授業は少人数制で、発音練習やディスカッション、プレゼンテーションなど「話す」ことを中心とした内容でした。最初は緊張しましたが、積極的に発言するうちに英語への抵抗感が薄れ、自分の言葉で伝える楽しさを実感しました。また、ホームステイ先では食事や日常会話を通して生きた英語に触れ、異文化への理解も深まりました。

今回の研修には九州大学から約30名が参加し、歯学部だけでなくさまざまな学部の学生とともに学びました。普段は関わる機会の少ない他学部の仲間と交流し、それぞれの将来の目標や学びについて語り合えたことは大きな刺激となりました。英語力の向上だけでなく、学部を越えたつながりが生まれたことも、この研修の大きな魅力です。九州大学歯学部には、このように視野を広げられる国際的な学びの機会があります。ぜひ皆さんも挑戦してみてください。



授業のあった校舎(Continuing Studying Building)



クラスメイトと教室にて



ホストファミリーと自宅前にて



夜のB.C.州議事堂(Parliament Buildings)

国際人として活躍する卒業生からのメッセージ

WHO西太平洋地域事務局 口腔保健コンサルタント 原田有理子 2016年度 歯学部卒業(西南学院高等学校卒)

私のキャリアは、九州大学歯学部に入學したことから大きく変わりました。大学に入る前までは、海外に行ったこともなく、英語も話せませんでした。しかし、九州大学での6年間と研修医として過ごした1年間、計7年間で私にとっての大きな転機となり、現在はフィリピンにあるWHO西太平洋地域事務局にて口腔保健を担当しています。

九州大学は、歯学部だけでなく、他の学部の授業を受けたり、留学生との交流を通じてさまざまな経験をさせてくれました。特に、ラオスやマラウイでのインターン活動では、途上国では歯科医師が不足しているだけでなく、国の保険制度に歯科治療が含まれていないこと、人々が口腔衛生について十分な知識を持っていない現状を目の当たりにしました。木の枝で歯を磨いている人々や、歯科医師がいない村で一般の人がベンチで歯を抜いている場面、そして高額な治療費のために治療を受けられない人々を見て、非常に驚きました。この経験から、すべての人々が健康な口腔保健を享受できる社会を作るために、保健制度の強化と口腔衛生教育がいかに重要であるかを実感しました。

九州大学歯学部を卒業後、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院で公衆衛生の修士課程を修了し、ヨルダンにある国連パレスチナ難民救済事業で小児栄養に関する業務に従事しました。その後、東京女子医科大学の公衆衛生分野で助教として、ネパールにおける糖尿病患者の口腔衛生向上を目的としたガイドライン作成に携わりました。



WHO本部にて
世界口腔保健レポート発刊に際して



WHOでの出張にて
バヌアツにて歯科保健政策立案を支援



大学6年時 マラウイにある中学校にて
口腔衛生教育活動を実施



ロンドン大学衛生熱帯
医学大学院にて同級生と

4年弱WHO本部(在スイス)にて口腔保健の仕事をしたのちに、現在はWHO西太平洋地域事務局(在フィリピン)にて口腔保健の仕事をしています。各国の保健省の歯科担当官への技術支援を行っています。こんなにも楽しくやりがいのある仕事に携わることができるなんて、幸せだと感じており、そのきっかけを与えてくれた九州大学に感謝しております。そして、今後ますます多くの歯科医師が国際的に活躍することを心から楽しみにしています。



歯学部サークル紹介



同窓会

歯学部同窓会は全国の同窓生・歯科医師に最新の情報を発信しています。

九州大学歯学部同窓会副会長 白重豊英（福岡県立筑紫丘高等学校卒）

歯学部同窓会では、同窓生の学力・技術力向上のために毎年4月の第4週日曜日に春季学術講演会を100～150名の来場者を集め学術講演会を行っています。また、5月、7月、9月、11月の第4水曜日の19時半より2時間、症例検討セミナーを行い、担当の演者の先生が診療に関する症例提示を行い、新しい術式や独自の術式を発表し、受講の先生方と活発な意見交換を行っています。さらに、診療技能のさらなる向上を図るため、コンポジットレジン充填*セミナー（前歯編、臼歯編）、口腔外科セミナー、小児歯科セミナー、歯内治療（歯の根の治療）の実習付きセミナーしております。春季学術講演会および症例検討セミナーは、新型コロナウイルスの流行をきっかけに会場とWebのハイブリッド形式で行っています。当日の講演を編集して後日オンデマンド配信をして何度も視聴できるようにしています。このハイブリッド形式の講演により、遠方の先生方や、当日所用のため受講できない先生方も受講できるようになり、受講生が増える結果となりました。同窓会の色々な分野にたけた先生方の尽力で、他大学の同窓会よりも早い時期にWebを使ったセミナーを行っております。これも九大歯学部同窓会の強みです。令和8年度の春季学術講演会、症例検討セミナーもハイブリッド形式で行うため、九大歯学部同窓生を中心に、日本全国から多数の参加が見込まれます。なお、学生はほとんどの企画に無料で参加できるようにしているため、熱心な学生さんも将来を見据えて積極的に参加していますので入学後は積極的に参加してください。

*コンポジットレジン充填：むし歯で悪くなった歯の一部を削って歯の色をしたプラスチックの詰めものをする治療を指します。全国レベルで活躍している、まさに神業のような技術を持つ同窓生による実習だけでなく、技術を競うコンテストも実施しています。



歯内治療実習セミナー



2025年度春季学術講演会の講師、座長、スタッフ一同



小児歯科実習セミナー

九州大学歯学部同窓会から受験生の皆さんへ 2026

九州大学歯学部同窓会 会長 久保秀郎（福岡県立修猷館高等学校卒）

九州大学歯学部は2026年で創立59年になる学部で、卒業生は2900名を超え、国内はもとより海外でも多くの同窓生が歯科医学の発展のため、また歯と口の機能回復や健康維持のため研究や診療に励んでいます。全国の大学で教授として、あるいは地域の歯科医師会やスタディグループでリーダーとして活躍されている先輩も多数います。

歯学部の卒業生はほぼ全員が歯科医師となるわけですから、世代を越えて同窓生のつながりをとて大事にしています。同窓会は1982年に創設され、同窓生同志の親睦・学術の研鑽・大学の発展を後援すること、さらに歯学部生のサポートを目的に活動しています。学生会員制度もあって大学と連携を取りながら学術活動、卒業生との交流事業、将来像の紹介など多方面から歯学部生をサポートしています。また、2024年から歯学部学生後援会を立ち上げ、国家試験全員合格を目標に活動を開始しました。

九州大学歯学部では、「口腔から全身の健康に貢献する」の理念のもとに優秀な歯科医師の育成に力を注いでいますが、まさに社会はそのような歯科医師を求めています。痛みや悩みをかかえて病院を訪れた患者さんから、治療の終わりには満面の笑みで「ありがとうございます」と感謝の言葉をいただいた時の充実感や満足感はそれまでの苦労を忘れさせてくれます。歯科医はとてもやりがいのある職業です。ぜひ、九州大学歯学部に進路を定めて頑張ってください。入学オリエンテーションでお会いできることを楽しみにしています。



野球部



ラグビー部



テニス部



サッカー部



バスケットボール部



バドミントン部



剣道部



スキー部



ゴルフ部



馬出吹奏楽部